

石西礁湖自然再生全体構想策定／石垣島の国立公園編入記念シンポジウム

「島・海・サンゴ礁 石西礁湖自然再生と国立公園」 議事概要

日時:平成 19 年 11 月 19 日(月)

18:30～20:40

場所:石垣市健康福祉センター

会の流れ

1. 開会の挨拶 環境省那覇自然環境事務所長
2. 主催者挨拶 石垣市長、竹富町長
3. 第 1 部 石西礁湖自然再生の意義(土屋誠琉球大学理学部長)、石西礁湖自然再生全体構想の紹介、石垣島の国立公園編入の紹介(山本麻衣国立公園企画官)
4. 第 2 部 トークショー「八重山の自然のすばらしさについて」さかなクン、♪鳥くん、琉球サンゴくん
5. 第 3 部 パネルディスカッション「サンゴ礁の保全」
6. 閉会の挨拶 友利弘一沖縄県文化環境部環境企画統括監

1. 開会

- ・中島那覇自然環境事務所長より挨拶が行われた。

平成 19 年 8 月 1 日に石垣島の一部が西表国立公園に編入され、公園名称が「西表石垣国立公園」に変わった。その中にある石西礁湖のサンゴは、オニヒトデ、海水温の上昇等により、ここ 10 数年で悪化しており、この問題を解決し、もとの姿(1972 年の国立公園指定当時)に戻すことを目指して、平成 19 年 9 月に石西礁湖自然再生全体構想をつくったところである。今日はサンゴ礁にスポットをあてて話をするので皆さんにも一緒に考えて欲しい。

2. 挨拶

- ・大瀨石垣市長より挨拶が行われた。

平成 19 年 8 月 1 日に石垣島の一部が西表国立公園に編入された。大事な風景を守っていくためには、どうしても公園編入が必要であり、賛否両論あったが、今ではみな喜んでいる。この大事な景観を、法律や条令をバックに守っていききたい。

- ・大盛竹富町長より挨拶が行われた。

平成 19 年 8 月 1 日に石垣島の一部が西表国立公園に編入された。この記念シンポジウムを企画してくれてありがとう。自然は八重山の発展の核となるので、子々孫々に伝える必要がある。多めに議論をして、それらの意見をうまく生かして欲しい。

3. 第1部 石西礁湖自然再生全体構想の紹介、石垣島の国立公園編入の紹介

(1) 石西礁湖自然再生の意義

- ・土屋理学部長により説明が行われた。

島人の宝、豊かな海を守ることをモットーにしている。島人だけでなく、世界の宝としたい。サンゴはいろいろな恵みを与えてくれているが、生活に利便性を求めることによって、最近おかしくなってきている。この課題を解決するためにはどうしたらよいかを考える必要がある。いろいろな原因でサンゴが健康でなくなっている、その理由は我々の人間の活動によるものであり、もとに戻すのも我々人間の責任である。そこに自然再生の意義がある。自然再生全体構想はつくだけだけではなく、実際に活動をしていく必要があり、皆で力をあわせて、石西礁湖を再生させましょう。

(2) 全体構想の概要と、石垣島国立公園編入について

- ・山本国立公園企画官により説明が行われた。

石西礁湖が悲鳴をあげている。高被度域（被度50%以上）が年を経るごとに減少している。そこで、約90名の協議会委員が集まって石西礁湖自然再生協議会を平成18年2月に発足し、平成19年9月に自然再生全体構想がつくられた。30年の長期目標として1972年の国立公園指定当時の状況に戻すことを目指しており、海の再生に加えて、人と海との関係も再生していきたい。全体構想は取組の方向性を示しただけであり、今後、取組を進めていくが、皆様にも関心を持っていただき、今後の協力をお願いしたい。

4. 第2部 トークショー「八重山の自然のすばらしさについて」さかなクン、♪鳥くん、琉球サンゴくん

- ・さかなくんはコブシメに会いたくて石垣島に来たことがある。コブシメは卵を生むと死んでしまう。サンゴの枝にピンポン玉大の卵を産んだことを見たことがある。その時オスのコブシメが見守っていた。
- ・オジサンという魚もいる。石垣ではカタカシという。ヒゲを立てながらエサを探す。
- ・サンゴは石だと思ふ人は赤、生き物は青。青が正解。東京では半々。石垣の人は生まれたときから見ているので当たり前かと思ふが、それが重要。
- ・サンゴが動物は青、植物は赤。青が正解。皆正解。
人とサンゴの違いは。暑いとき人は避難できる。サンゴは動けない。逃げられないから大変。海が汚れると大変。（何と？→）仲良くしないといけない。
- ・アカショウビンを見たことのある人は赤。ない人は青。皆赤。
東京にはアカショウビンがいない。カワセミの次に人気がある。アフリカマイマイを食べる。
- ・ズグロミゾゴイを見たことのある人は青。青がほとんど。30分くらいぴたっと止まる。スポーツ公園にもいた。
- ・カツオドリ、珍しい。オオコウモリ。こうもりは鳥ではない。カンムリワシ。バッタを食べる。サギが近づくと逃げてしまった。
- ・アオバト、ツルクイナ、イシガメ、コノハズク、スズメダイ、アジサシ、セマルハコガメ。白くてもクロサギ。南方ほど白いのが多い。石垣は黒と白がいる。アオバズク等、珍しい鳥がたくさんいる。

・♪鳥くんの歌

こうちゃんのうた

この空の太陽の下に

美しい鳥 美しい海 美しいサンゴ

これからも大切なサンゴの海を守ってください

私たち友達だね 今から友達だね

(最後に)

- ・♪鳥くん：石垣で96種の鳥を見た。東京では見られない。田んぼがあり、山、海があるから見られる。この島にはいろんな自然があるから見られる。皆さんには当たり前かもしれないが、すごい。自然を大事に残して欲しい。
- ・琉球サンゴくん：人間とサンゴが仲良く生きているように頑張っていきましょう。
- ・さかなクン：石垣島の海はすばらしい。石垣は大自然がいっぱい。この自然をいつまでも大切にしてほしい。

5. 第3部 パネルディスカッション「サンゴ礁の保全」

(コーディネーター)

- ・土屋誠琉球大学理学部長

(パネリスト)

- ・沖縄県八重山福祉保健所 大見謝辰夫生活環境班長
- ・(財)世界自然保護基金ジャパン WWF サンゴ礁保全研究センター 上村真仁研究センター長
- ・八重山ダイビング協会 田淵直樹環境保護対策委員
- ・八重山漁業協同組合 池田元氏
- ・さかなクン
- ・内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課 阿野貴史課長
- ・環境省那覇自然環境事務所 中島慶二所長

土屋：サンゴ礁保全はどうあるべきか整理したい。♪鳥くんが大事なことを言っていた。いろんな場所があるからたくさん鳥が観察できた。そのような自然を残すために、どうしたらよいかを考えたい。まずは池田さんから。

(パネリストとサンゴとの関わりについて紹介)

池田：ハマサキノオクサンについて。浜崎灯台をつくった人の奥さんがよく食べていた魚ということである。コブシメは今頃から卵を産み始める。コブシメは家をスズメダイにかす。スズメダイは掃除をして返す。コブシメのオスとメスが交互にくるのでこれを海人がねらう。

田淵：年間300日海に出ている。サンゴの周りにいる魚等をダイバーに紹介している。サンゴには大変興味があるので皆さんよろしくお願いします。

上村：生物多様性の保全や地域のみなさんと資源管理に取り組んでいる。サンゴ礁は生活を映し出す鏡である。人間活動の変化の中で生き物が減ってきた。今年はサンゴの白化がひどく、人間活動によるストレスに、より生き物の耐性が低くなってきているのではと心配している。

阿野：環境省と一緒に自然再生全体構想をつくった。特徴的なことは、地域の人の生活と自然をどう両立させていくことが課題。それが検討できた。

池田：サンゴは防波堤。サンゴ、藻場があってというバランスがとれているのがよい。食事もバランスがとれているのがよい。今年はサンゴ白化、20年前のオニヒトデの影響に対して、元に戻す必要がある。

大見謝：地球規模の現象により、サンゴが消えてしまった。私たちが地球規模の問題に対してできる対策として、電気をこまめに消す、環境教育も重要。世界とネットワークをつくって、情報を伝えていく必要がある。

(地球規模の問題に対して何ができるか)

中島：温室効果ガスが経済活動により増え、気温が上がっている。話が地球規模であるが、誰がどうするかという意味では、一人一人が温室効果ガスを減らすよう行動する必要がある。冷房を控えめにする、県庁に行くときは自転車とした。皆さんにも挑戦してもらいたい。

土屋：個人と地球規模の問題は繋がっているということだ。

さかなクン：行動することが重要。二酸化炭素を出さないように移動手段を考えてみたい。エコバックで買い物をする。好き嫌いをなくして、おいしく頂くのがよい。そうすれば汚れが水に出ない。

(質疑)

傍聴者（八重山高校山崎）：教育機関が子供に啓蒙していくことが重要。今回のプロジェクトでいくらの予算を出しているのか？

中島：啓発という意味では、子供エコクラブ等の活動を実施している。年間数10～100万でやっている。自然再生事業はある程度まとまったお金がある。サンゴの移植と普及啓発を一生懸命やっている。誰でも参加できる自然再生協議会で議論をして計画を作っているところ。

傍聴者：ビーチの砂が港に入った。それを元に戻すとといったことに対して、環境省は何かしらやっているのか？

中島：これまでは縦割り行政ということもあり、慣例的に干渉はしてこなかった。ただし国立公園区域内であれば環境省に管理責任があるため対応できる。今回、自然再生協議会という場ができ、意見をぶつけあうことができようになった。

阿野：沖縄総合事務局開発建設部ということで、国土交通省の業務を実施している。施設を整備をする立場から、住んでいる人の生活を基本に、どのように自然を保護していくかということを考えている。最近では、防波堤をつくるときには、サンゴが着生しやすいような工夫もしている。

田淵：観光客を毎日、サンゴの海に連れて行っている。同じところに連れて行っても、今年はなくなっているというひどい状況である。

土屋：自然再生の議論は今日で終わりではない。今後も続く。皆さんと一緒に活動を続けていきたい。

6. 閉会

友利環境企画統括監

多くの方からの協力ありがとうございます。第1部では、石西礁湖自然再生の意義について。第2部では、八重山のすばらしさを楽しく話してくれた。第3部では、パネルディスカッション、貴重な意見を頂きありがとうございます。今回のシンポジウムが、「自然を守ることが地域の発展につながる」ということを啓発するきっかけになればよい。